

滋賀大学大学院経済学研究科 博士後期課程のアドミッション・ポリシー、 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1. 教育理念と教育目的

経済学部は、教育理念として「国際的な視野をもち、環境に配慮しつつ地域社会にも貢献できる、個性ある専門職業人の養成（グローバル・スペシャリストの養成）」を掲げ、その資質として「意識、知識、見識」の涵養と、それを基礎にした課題探求力の育成に取り組んでいます。この理念を博士後期課程に具体化し、経済経営リスク専攻は、リスクに精通し、リスクを適切に管理し、リスクをふまえて新たな事業を創出できるリスク・リサーチャーの養成を目的とします。

2. アドミッション・ポリシー

滋賀大学大学院経済学研究科博士後期課程は、教育理念・目標に基づき、次のような人を求めています。

- (1) いずれかの専門分野において修士課程を修了した者（見込含む）又はそれと同等以上の学力がある者で、専門的知識を持ち、論理的思考力と表現力、リサーチ能力をもつ実務経験者ないしはそれに相当する人
- (2) 経済学又は経営学、及びリスクに関する知の探求と創造に高い意欲と能力のある人
- (3) 国際社会・地域社会の課題の発見とその解決に高度な専門知識と見識・教養をもって指導的役割を果たすリスク・リサーチャーを目指す人

このような人材を選抜するために、博士後期課程入試では、派遣志願者に対しては研究業績、審査用論文及び研究計画等の出願書類による論文審査と口述試験によって、志願者の資質を適切に評価します。また、一般志願者に対しては論文審査、口述試験に英語外部検定試験の成績を加えて、志願者の資質を適切に評価します。

3. ディプロマ・ポリシー

滋賀大学大学院経済学研究科博士後期課程では、下記の条件を満たした者に博士（経済学又は経営学）の学位を授与します。

- (1) 経済学ないし経営学における専門的知見及びリスクについて体系的に修得し、最先端の研究動向にもキャッチアップできる、専門性を備えている。
- (2) 研究テーマや実践的課題について、専門分野及びリスクの視点から理論的・実証的に思考し、意思決定したり、問題解決に導いたりできる、高い課題探求力を備えている。
- (3) 専門分野に関わるリスク分析やリスク管理において指導的役割を果たせる、リスク・リサーチャーとしての能力及び見識・教養を備えている。

4. カリキュラム・ポリシー

滋賀大学大学院経済学研究科博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーに基づき、リスク・リサーチを養成するためのカリキュラムを提供します。

(1) カリキュラム編成

経済学又は経営学の分野で高い研究遂行能力を養成するとともに、広くリスクに精通し、リスクを適切に分析・管理し、リスクをふまえて新たな事業を創出できるようにもなるために、次の2点に基づいてカリキュラムを編成します。

第1に、経済活動に対応して、博士後期課程に置く専攻の研究教育分野は「リスク基礎」及び「リスク発展」から構成します。

第2に、学位論文の準備から完成にいたる全過程において、複数教員指導体制のもとで、「フィールドワーク」、「プロジェクト研究」、「論文演習」、「ワークショップ」、「特別演習」といった科目を通じて、博士論文の完成をサポートします。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、成績の評価基準に照らし、各科目のシラバスの「授業の到達目標」「成績評価の方法」欄で設定されている到達度・評価方法に基づき評価します。なお、到達度は、レポート、発表・報告及び執筆した論文など、多様な方法の中から適切な方法を選択又は組み合わせて判断します。

また、学位論文については、経済学研究科論文審査基準に基づく論文審査及び最終試験の結果により評価します。

経済経営リスク専攻の概要

1. 本専攻の特色

本専攻は、経済学及び経営学におけるこれまでの蓄積と最新の理論を基礎とした「経済」、「企業経営」、「金融」、「情報」、「公共部門」等のリスク研究者、それらの個別化された枠にとらわれず、リスクに精通し、リスクを適切に管理し、リスクをふまえて新たな事業を創出できる人材の育成を目的とします。社会科学系の「リスク・リサーチャー」養成の試みは我が国では最初ですが、そのプログラムの考え方は次のとおりです。

第1に、本専攻では、経済活動に伴って生じるリスクのうち、経済リスク、経営リスクに研究領域を設定し、その教育研究分野は、「リスク基礎」及び「リスク発展」から構成されます。

第2に、院生の研究指導拠点として、「特別演習」、「プロジェクト研究」、「フィールドワーク」、「論文演習」、「ワークショップ」を設定し、学位論文準備から論文完成にいたる全過程における複数教員指導体制を実現し、きめ細かな指導体制のもと、学位論文の完成を目指します。

2. 教育研究分野とその内容

「リスク基礎」及び「リスク発展」の2教育研究分野の内容は、次のとおりです。

- (1) 「リスク基礎」では、リスクに関連する諸理論の体系的な理解、リスク分析に不可欠の不確実性と確率理論、経済・経営におけるリスク発生の可能性とその分析手法等、リスクに関連する基礎的な理論、分析手法及びリスクと経済倫理の関係について教育研究します。
- (2) 「リスク発展」では、リスク理論やリスク管理手法をふまえて、積極的にリスクを取りつつ、企業を創造し、産業を創造し、地域を創造する環境整備リスクを認識すること。そして、リスクを認識し、リスクをいかに回避し、損失を予防し、いかに適切にリスクを保持するか、いかにリスクを移転するか、いかにセーフティネットを設計するかについて、ミクロとマクロのリスク管理手法に基づいて教育研究します。
- (3) 以上の2教育研究分野に加え、「共通」科目として、「特別演習」（必修）、「プロジェクト研究」、「フィールドワーク」、「論文演習」、「ワークショップ」を設定します。「特別演習」は、指導教員と副指導教員が院生の到達度を評価し、学位論文準備や論文作成のために適切な研究指導を行うものです。「プロジェクト研究」は、指導教員と副指導教員の指導のもとで院生が他の教員や他の研究機関の研究者とテーマ別の共同研究を行うものであり、「フィールドワーク」は1週間以上の実地調査を行い、事前・事後に指導教員・副指導教員等、複数教員の指導を受けるものです。「論文演習」は、学術雑誌投稿前の完成原稿を副指導教員がレビューし、指導を受けるものです。「ワークショップ」は、指導教員の助言のもとセミナーや学会に出席し、事後に副指導教員の指導を受けるものです。

3. カリキュラムの編成

本専攻の科目編成と履修方法は、次のとおりです。

第1に、「リスク基礎」と「リスク発展」から2科目4単位以上を選択必修として履修します。「リスク基礎」においては、基礎的な科目を学び研究基盤の幅を広げ、「リスク発展」においては、リスク研究の最先端を修得します。但し、「リスク発展」の科目群から1科目2単位以上を選択必修としています。

第2に、複数指導教員の指導のもとで実施される「プロジェクト研究」、「フィールドワーク」、「論文演習」、「ワークショップ」を選択必修科目とします。そこでは、特殊講義で修得した最先端の知識を活用して、実際的な問題発見能力や解決能力、また柔軟で自立的な研究能力を培います。

第3に、学位取得にむけた必修科目として「特別演習」を各年次に配当します。「特別演習」は、指導教員および副指導教員が、「特殊講義」、「プロジェクト研究」、「フィールドワーク」、「論文演習」、「ワークショップ」で培われた院生の研究能力を評価し、方向付け、最終的に学位論文に結実するよう研究指導を行うことを目的とします。

付表 修了のための所定単位数

教育研究分野	授業科目	必要単位
リスク基礎	リスク基礎の科目群 (各2単位)	リスク発展から2単位を含む4単位以上
リスク発展	リスク発展の科目群 (各2単位)	
共通	フィールドワーク (2単位)	8単位以上
	プロジェクト研究 (2単位)	
	論文演習Ⅰ・Ⅱ (各2単位)	
	ワークショップⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (各2単位)	
	特別演習Ⅰ・Ⅱ (各2単位)	4単位
	特別演習Ⅲ (4単位)	4単位
合計	修了要件	22単位

(4) 授業科目, 単位数

教 育 研 究 分 野	授 業 科 目 名	単 位 数	選 択 ・ 必 修
リ ス ク 基 礎	約 50 科目 (科目名省略)	各 2	リスク発展 から 2 単位 を含む 4 単 位以上
リ ス ク 発 展	リスクの経済学特殊講義	2	
	確率リスク論特殊講義	2	
	金融工学リスク特殊講義	2	
	金融リスク論特殊講義	2	
	経済システム・経済思想特殊講義	2	
	マクロ経済学特殊講義	2	
	経営管理リスク論特殊講義	2	
	会計学特殊講義	2	
	国際経済リスク論特殊講義	2	
	社会保障リスク論特殊講義	2	
	情報通信システム論特殊講義	2	
	環境リスク管理論特殊講義	2	
	法・政治リスク論特殊講義	2	
	労働経済リスク論特殊講義	2	
	マーケティングリスク論特殊講義	2	
	財政システム論特殊講義	2	
	近江商人論特殊講義	2	
	比較地域史論特殊講義	2	
	比較地域経済史論特殊講義	2	
リスクの社会学特殊講義	2		
行動科学リスク特殊講義	2		

教 育 研 究 分 野	授 業 科 目 名	単 位 数	選 択 ・ 必 修
共 通	フィールドワーク	2	8 単位以上
	プロジェクト研究	2	
	論文演習 I	2	
	論文演習 II	2	
	ワークショップ D I	2	
	ワークショップ D II	2	
	ワークショップ D III	2	
	ワークショップ D IV	2	
	特別演習 I	2	必 修
	特別演習 II	2	必 修
	特別演習 III	4	必 修

【博士後期課程担当教員名及び主たる教育研究分野】

希望する指導教員を下記から選んでください（ の教員は指導教員として選べません）。

主たる教育研究分野	職名	教員名
近世日本観光地域史・旅行文化史の研究, 近世日本宗教社会史の研究	教授	青柳 周一
日本の19世紀後半から20世紀初頭にかけて, 伝染病, 地震, 都市祭典, 殺人事件などを題材にして, 社会史研究, 文化研究をおこなう	教授	阿部 安成
財務会計における期間損益計算に関する研究	教授	太田 善之
企業間取引に関するネットワーク分析, 顧客満足および消費行動に関する実証研究	教授	岡本 哲弥
先進国と発展途上国間の経済関係の研究, 途上国間の地域経済統合の開発戦略としての可能性の研究	理事	小倉 明浩
組織行動論・リーダーシップ論・フォロワーシップ論	教授	小野 善生
財政学・地方財政論・非営利組織論	特任教授	北村 裕明
開発途上国の経済開発政策と成長要因分析, 国際協力と国際開発援助に関する研究	教授	金 秉基
経営管理論 データサイエンス, テキストマイニング, データマイニング	教授	喜田 昌樹
消費に基づく資本資産評価, 金利派生資産評価	教授	楠田 浩二
一般システム理論の視角によるマクロ理論社会学(社会構造論, 社会変動論を中心)特に, 人間の「欲望」の概念に立脚した社会システム論, 貨幣論, 権力論の構築	教授	黒石 晋
理論経済学, マクロ財政学	教授	近藤 豊将
海外投資の保護に関する国際法, 国際経済法	教授	坂田 雅夫
医療・介護従事者不足の原因解明と解決策の導出に関する研究	教授	佐野 洋史
多国籍企業における国際人的資源管理と異文化マネジメント	教授	澤木 聖子
景気変動とマクロ経済政策, 景気循環とインフレ, 経済成長と経済発展, 動学的厚生経済学, 資源及び環境開発問題	教授	鈴木 康夫
産業財取引を中心に, 様々な企業のマーケティング活動と成果との因果関係に関して, 実証的な検証を目指している	教授	清宮 政宏
社会心理学・文化心理学・進化心理学	教授	竹村 幸祐
(1)水環境問題の経済分析 (2)途上国の環境効率と持続可能性 (3)国際環境条約の有効性と制度設計	教授	田中 勝也
マルクス経済学および制度的・進化的アプローチによる市場機構の検討	教授	田中 英明
メタ認知の基盤となるメカニズムについての実験的研究	教授	谷上 亜紀
アライアンスと経営戦略, 社会ネットワーク分析, 特許分析, 標準化プロセス, 企業再生のマネジメント等	教授	陳 韻如
比較社会学, エスニシティ, 公共住宅団地, シンガポール, アジア都市社会	教授	鍋倉 聰
産業組織論/ミクロ経済学/環境問題/企業結合/法人株式保有/コーポレートガバナンス/談合	教授	中野 桂
国際会計制度の比較, 会計報告にもとづく経営者インセンティブ設計, 環境会計情報の自発的開示	教授	野田 昭宏
民事法学, 債権, 保証, 扶養	教授	能登 真規子
パラグアイ, 歴史, 植民地社会, 贈与・権力・暴力, 外国語教育, 高等商業学校, 教養教育, メキシコ移民, 滋賀県	教授	坂野 鉄也
シンガポール, ジェンダー, 宗教, 寺	教授	福浦 厚子
税法(所得税法, 法人税法及び相続税法), 事業承継税制, 事業再生税制	教授	増山 裕一
自然資源の維持管理・ソーシャルキャピタル・エネルギー	教授	松下 京平
財政学・租税論	教授	松田 有加
ワルラスを中心とした現代経済学史, フランス経済学史	教授	御崎 加代子
地方自治, 自治体内分権, 近隣政府	教授	宗野 隆俊
エコロジカル・エコノミックモデル分析(サステナビリティに関する学際研究), 医療政策, 日本の企業システム, 都市のサステナビリティ	教授	森 宏一郎
戦後日本労働史	教授	山田 和代
地方自治, 行政経営改革, 公民連携, 地域活性化	教授	横山 幸司
(1)国際金融の実証研究[為替レートパススルー, 外国為替市場介入] (2)国際貿易の実証研究[輸出マージン, 産业内貿易, 貿易港別データ分析] (3)ファイナンスの実証研究[外国為替市場高頻度データ分析, 株式市場の国際間の連結性]	教授	吉田 裕司
マルチエージェントに基づくGISデータ獲得に関する研究	教授	渡邊 凡夫

主たる教育研究分野	職名	教員名
制度会計(財務会計)	准教授	赤塚 尚之
オークションデータの分析, 応用計量経済学	准教授	石井 利江子
金融の公共経済学, 金融動学, 金融契約論	准教授	井手 一郎
カオスコミュニケーションシステムにおける通信誤差確率の統計的評価	准教授	大濱 巖
内戦と天然資源に関する実証研究	准教授	大村 啓喬
財務諸表監査の質に影響を及ぼす要因に関する研究, 監査人の独立性に関する研究	准教授	笠井 直樹
マーケットマイクロストラクチャーノイズの計量	准教授	金谷 太郎
リサイクルリング, 収益認識, 実現, 業績報告, 概念フレームワーク, 純利益, 資産負債アプローチ	准教授	可児島 達夫
金融工学(金融モデル, 実証分析, リスク分析)	准教授	菊池 健太郎
管理会計学	准教授	衣笠 陽子
経営戦略, 経営管理, 企業統治及び地場産業・伝統産業に関する国際比較経営制度に関する研究	准教授	柴田 淳郎
技術開発および国際化の戦略と組織マネジメント	准教授	竹中 厚雄
ミクロ経済学, 一般均衡分析, 数理経済学	准教授	谷川 義行
誤り制御方式に関する研究	准教授	富田 健一
組合せ最適化と協力ゲーム理論の数理的研究	准教授	内藤 雄志
ゲーム理論, 行動ゲーム理論, ミクロ経済学	准教授	府内 直樹
企業価値評価, 会計学, 管理会計, 財務諸表分析	准教授	宮西 賢次
企業財務論	准教授	村松 郁夫
ビジネス・エコノミクス(特にフランチャイズ・システムとコンテンツ産業)	准教授	山下 悠
公共経済学, 公共選択, 法と経済学, 環境経済学, 都市経済学	准教授	和田 佳之